

前回定例会（平成18年9月6日）以降の行政の動き

平成18年10月4日
原子力安全・保安院
原子力安全地域広報官

1. 「検査の在り方に関する検討会中間報告書」とりまとめ（9月7日）

原子力安全・保安院（以下「当院」）は、原子力発電所の検査制度の改善の方向性について、昨年11月から、総合エネルギー調査会原子力安全・保安部会「検査の在り方に関する検討会」において、検討を行ってきた。9月7日に開催された検討会において、現行の検査制度の課題及びこれに対する今後の改善の方向性について報告書を取りまとめた。改善は、①プラント毎のきめ細かい検査へ移行、②運転中の検査の充実強化、③根本的な原因分析への積極的な取り組み、が柱となっており、平成20年度からの実施を目指す。

2. 実用発電原子炉に係る平成18年度第1四半期の定期安全管理審査について（9月15日）

平成18年度第1四半期の実用発電用原子炉に係る定期安全管理審査の結果について、当院は、原子力安全委員会に報告。柏崎刈羽関連では、2号機の第11回、6号機の第7回、1号機の第14回定期検査における定期事業者検査の定期安全管理審査及び評定の結果が報告された。

3. 東京電力株式会社柏崎刈羽原子力発電所第3号機の定期検査終了証の交付について（9月15日）

総合負荷性能検査を行い、全ての検査が終了したと認められたことから、当院は、定期検査終了証を交付。

4. 沸騰水型原子力発電所のハフニウム板型制御棒のひび等に関する対応について（中部電力㈱浜岡原子力発電所3号機における同型制御棒のひび等の原因と対策に係る中部電力㈱からの報告及び検討結果について）（9月19日）

定期検査中の浜岡原子力発電所3号機（BWR：定格電気出力110万キロワット）において、本年8月7日より、炉内に装荷されていたハフニウム板型制御棒13本を点検したところ、うち5本にひびが発見された事象に関し、中部電力㈱は、当院に対し、原因と対策に係る報告書を提出。中部電力㈱は、これまでに福島第一発電所6号機などで確認されたひびと同様の原因で発生・進展したと推定し、対策もこれまで同型制御棒で実施してきた対応を継続するとのこと。

当院は、報告を受けた原因の推定と対策等は妥当であると考え、これら対策等の実施状況について、適宜確認することとしている。

5. 「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」等の改訂に伴う既設発電用原子炉施設等の耐震安全性の評価等の実施について（9月20日）

9月19日付けで原子力安全委員会は、「発電用原子炉施設の耐震設計審査指針」等の耐震安全性に係る安全審査指針類（以下、「耐震指針」）を改訂。

当院は、耐震指針の改訂を受け、9月20日、稼働中又は建設中の発電用原子炉施設、再処理施設、特定廃棄物管理施設、新型転換炉ふげん発電所についても、改訂された耐震指針に照らした耐震安全性の評価を実施し、その結果を当院に報告するよう原子力事業者等に対し指示。

また、耐震安全性の評価とは別に、将来の確率論的安全評価の安全規制への導入の検討に資する情報として、「残余のリスク」の評価を実施し、当院に報告するよう指示。

以上